

第4週の発生動向(2008/1/21~2008/1/27)

1. インフルエンザについては、[インフルエンザ情報](#)に掲載しています。
2. 咽頭結膜熱については、東地方+青森市保健所管内においては第45週から、むつ保健所管内において第48週から**警報**が続いています。
3. 感染性胃腸炎については、むつ保健所管内において、第2週から**警報**が続いています。
4. 麻疹については、弘前保健所管内において、患者発生が続いていることから、他の保健所管内においても注意が必要です。

第4週五類感染症定点把握 注:五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

疾患番号・疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	東地方(再掲)		青森市(再掲)		定点数				
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点		数	定点	数	定点	数	定点	小児科	内科	眼科
(85) インフルエンザ	115	8.85	27	1.80	106	7.57	23	3.29	175	19.44	305	50.83	751	11.73	259	8	4.00	107	9.73					
(74) RSウイルス感染症	1	0.13	4	0.44			3	0.60	13	2.17	1	0.25	22	0.54	2			1	0.14					
(75) 咽頭結膜熱	5	0.63	3	0.33					2	0.33	5	1.25	15	0.37	2	1	1.00	4	0.57					
(76) A群溶血性レンカ球菌咽頭炎	16	2.00	22	2.44	3	0.33	3	0.60	14	2.33			58	1.41	19	2	2.00	14	2.00					
(77) 感染性胃腸炎	86	10.75	52	5.78	17	1.89	28	5.60	22	3.67	58	14.50	263	6.41	-14	7	7.00	79	11.29					
(78) 水痘	10	1.25	24	2.67	4	0.44	5	1.00	10	1.67	1	0.25	54	1.32	9			10	1.43					
(79) 手足口病			3	0.33									3	0.07	0									
(80) 伝染性紅斑					2	0.22			2	0.33			4	0.10	-6									
(81) 突発性発疹	4	0.50	1	0.11	4	0.44			4	0.67	3	0.75	16	0.39	-4	3	3.00	1	0.14					
(82) 百日咳			1	0.11									1	0.02	0									
(72) 風しん	平成20年1月1日から全数把握疾患に移行しました。																							
(83) ヘルパンギーナ															0									
(73) 麻疹	平成20年1月1日から全数把握疾患に移行しました。																							
(84) 流行性耳下腺炎							1	0.20					1	0.02	-3									
(86) 急性出血性結膜炎															0									
(87) 流行性角結膜炎					1	0.50	1	1.00					2	0.18	-3									
(95) マイコプラズマ肺炎					3	3.00					1	1.00	4	0.67	1									
合計	64	41	23	11	6																			

は警報 は注意報 「空欄」:患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (注:届出数は速報値です)

- (9) 結核(二類全数把握疾患): 弘前4人、八戸1人、五所川原2人、青森市2人 (20年計:19人)
- (73) 麻疹(五類全数把握疾患): 弘前2人 (20年計:15人)

感染症の窓

RSウイルス感染症 (respiratory syncytial virus infection)

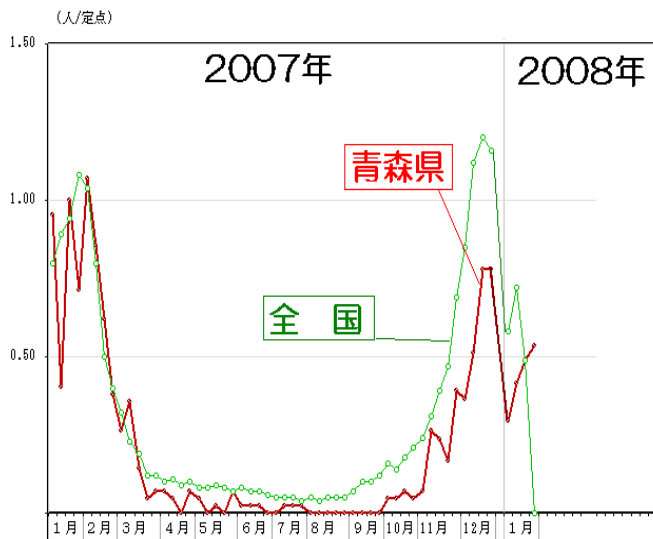


図 全国及び青森県における報告数推移

本疾患は、RSウイルスによる急性呼吸器感染症(気管支炎など)で、好発年齢は乳幼児です。例年、冬期に流行し、初春まで続くことから、これからの季節は、特に注意が必要です(図)。本県では、現在、上十三保健所間内において、13人の届出数となっています(表)。本感染症は、2~5日の潜伏期間の後、**発熱、鼻汁、咳、嗜痰**などで発症し、接触または飛沫によって経口的に感染することから、感染予防には、乳幼児と接触する保護者の**外出後のうがい及び手洗いの励行**が極めて重要です。年長児や成人も感染しますが、乳幼児が感染すると細気管支炎、肺炎など重症になり、入院が必要になることがあるため、予防対策が特に重要です。